

**受講料
無料**

※テキスト
代金等は
自己負担です

**保育士を
目指します**

**短大で
学ぶ！**

幼児教育学科

- ◆ 2年間、短期大学で学び、卒業時には「短期大学士」の学位と、「保育士」の国家資格を取得できます。
- ◆ 講義や実習などを通して子どもの保育に関する専門知識と技能を習得し、保育所や福祉施設への就職を目指します。
- ◆ 人間性を重視し、実践に向けた考えを深めます。学内には、子どもたちと交流できる「こどもセンター」など、実践的な環境が整っています。

※任意で「幼稚園教諭二種免許状」の取得も目指せます。
(訓練のほかに、必要な科目の追加受講が必要です。)

【募集対象】

以下のすべての条件に当てはまる方。

- (1) 高等学校を卒業した方、またはこれと同等以上の学力を有する方（新規学卒者は除く）
- (2) 正社員就職を希望する方
- (3) 公共職業安定所においてジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティングを受けた結果、受講が必要であるとして、公共職業安定所長の受講指示等を受けられる方
- (4) 訓練コースの対象資格等を取得する意志がある方(既に取得済みの方は対象外となります)

※申込を検討される方は、事前に訓練説明会に参加してください。

【訓練説明会】

訓練受講申込を検討される方はご参加ください。(指定日あり)都合がつかない場合は個別に対応いたします。

※お電話でお申込ください。
金沢学院短期大学 教務部
TEL:076-229-8861

【訓練期間】2年間

【訓練時間】9：10～16：30（90分×4時限）

※5時限目がある場合は18時10分まで

※夏季休業、冬季休業、春季休業などの長期休業があります。

※実習期間中は実習先企業（施設）の就業規則に準じます。

【定員】9名（1名より開講予定）

※選考（書類選考・小論文・面接）により受講者を決定します。

※短大学生との合同授業となります。



【実施施設】金沢学院短期大学

金沢市末町10 076-229-8861

北鉄バス：金沢学院大学バス停下車徒歩1分（駐車場利用は許可制で有料）

【自己負担額】テキスト代、資格試験受験料、その他諸費用は自己負担となります。

詳しくは裏面をご覧ください。

【申込時に必要な物】

(1) 入学願書

委託訓練用「受講申込書」(写真貼付)と短期大学用「入学志願票・志望理由書」(写真貼付)、「履歴書」の計3種類。
(用紙はハローワークにあります。)

(2) 調査書・最終学歴の卒業証明書（卒業証書コピー可）

※事情により調査書が得られない場合は卒業証明書を提出。高等学校卒業程度認定試験・大学入学資格検定の合格者は「合格成績証明書」を提出。やむを得ず間に合わない場合は選考日までに準備してください。

(3) 履歴書（指定用紙はハローワークにあります。）

開講月	申込締切日	選考日	合格発表日	開講日・終了日
4月	3月13日 (金)	3月23日 (月) <選考方法> ※書類選考、 小論文、面接	3月24日 (火) ※この日に金沢産業 技術専門校より発送 及び掲示します。	令和8年4月2日（木）～令和10年3月15日（水） ・原則として、土・日・祝は訓練休です。ただし、カリキュラムにより土・日・祝に訓練がある場合もあります。 ・令和10年2月18日（金）は、就職活動日です。

※選考時間は受験票にて確認ください。

※選考日の前々日までに受験票が到着しない場合は3月19日に金沢産業技術専門校にご連絡ください。

【選考実施場所】金沢学院短期大学

【開講式】4月2日（木）10：30～ 金沢歌劇座にて行います。

受講申込・お問い合わせ先については、裏面をご覧ください。

自己負担額

【共通（必ず必要なもの）】

テキスト（2か年分）	¥88,630
後援会費（2か年分）	¥52,000
学友会費（2か年分）	¥10,000
同窓会費（2か年分）	¥15,000
学研災・学研賠償	¥2,080
保育士登録手数料	¥4,700
合計	¥172,410

※テキストは半期毎に必要な分を購入、後援会費は半期毎に¥13,000を、学友会費・同窓会費は各年度の前期に1年分（5,000円と7,500円）を納付する。学研災・学研賠償は初年度に一括納付する。保育士登録手数料は資格取得時に納付する。

※実習及び施設外研修等に係る交通費・実習費やオンラインによる通信費は自己負担となります。

【該当者のみ】

訓練生総合保険（2年分・任意加入（勧奨）） ※振込手数料別途	¥15,850
教職課程履修費（2年次） （幼稚園教諭二種免許状の取得を目指す場合）	¥15,000
教育実習費 （幼稚園教諭二種免許状の取得を目指す場合）	¥20,000
再試験料（履修科目不可の場合：1単位当たり）	¥1,000
学内駐車料金・登録料 （年度毎に申請が必要（2年分））	¥20,000

※金額が変更となる場合があります。

【受講に必要な機器・環境】

状況に応じてオンラインの授業を行う場合があります。各自通信環境が整った(Wi-Fi推奨)、パソコン(マイク、カメラ付き)やスマートフォンの準備が必要となります。

※通信費は訓練生の自己負担となります。

<雇用保険受給資格者の方>

- ・訓練期間中、雇用保険（基本手当）の支給が延長されます。
- ・一定の要件がありますので、詳しくは最寄りのハローワークにてお問い合わせください。

<雇用保険を受給できない方>

- ・一定の支給要件を満たす方には、訓練期間中、職業訓練受講給付金が支給されます。
- ・支給要件は最寄りのハローワークにてお問い合わせください。

★受講申込

各公共職業安定所（ハローワーク）職業訓練相談窓口まで

★カリキュラムに関するお問い合わせ先

金沢学院短期大学 教務部 金沢市末町10 TEL076-229-8861

★その他のお問い合わせ先（受験票など）

石川県立金沢産業技術専門校 金沢市観音堂町子9 TEL076-267-2221

訓練カリキュラム

5-08-17-207-05-0061

実施施設名	金沢学院短期大学			
訓練科名	幼児教育学科			
定員	9名		就職先の職務 保育士	
訓練期間	令和8年4月2日 ~ 令和10年3月15日 (24か月)			
訓練時間	9:10 ~ 16:30			
訓練概要	保育者を目指し、保育領域における専門的な基礎知識や技能・技術を習得します。また、OA機器等の操作技能及びデータ処理等の基本技能を習得します。			
訓練目標	人格形成上重要な乳児期に関わる保育者としての自覚を持ち、豊かな人間性と感性を身につけた実践力に優れた保育者となることを目指します。			
	科 目	科 目 の 内 容		時間数
訓練の内容	学科	行事	オリエンテーション	
	学科	就職支援 (卒業研究)	保育で用いる教材作成をテーマとする。保育内容と年齢、5領域との関連等の検討を経て教材を考案し、その経過をまとめる。	60H
	学科	日本語 I	社会人として活躍するために必要な日本語の基本的な知識と技能を学び、自分の考えや企画等を的確に相手に伝える表現力や、文章や相手の表現に対する的確な理解力を身につけることを目指す。具体的な講義では、敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字などの基本的な日本語能力や、保育の現場における日本語表現についての正しい知識や用法を習得することを目指す。	16H
	学科	日本語 II	社会人として活躍するために必要な日本語の基本的な知識と技能を学び、自分の考えや企画等を的確に相手に伝える表現力や、文章や相手の表現に対する的確な理解力を身につけることを目指す。具体的な講義では、保育の現場における日本語表現についての正しい知識や用法に習熟しつつ、実習日誌や連絡帳・園だよりの書き方を学ぶ。	16H
	学科	実用英語コミュニケーション	英語のリスニングと英語による会話の演習を繰り返し行い、基礎的な英単語と英語表現の音、意味、文法を習得する。	30H
	学科	日本国憲法	この授業では、憲法の基本的人権を中心に、個人の権利と社会の関係等、私達の生活と法との関わりを理解した上で、今日的な問題を検討する等、法律の基礎知識の習得とそれに基づいた法的思考能力及び問題解決能力の育成を目指す。	30H
	学科	保育原理	保育の理念や意義について理解する。保育が歴史的にどのようにして発展してきたのか、また、どのような方法があるのか理解する。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、環境を通して行われる保育のなかでの子どもの姿、保育の質を保障する保育者の役割、計画・実践・評価・改善の過程について理解する。また、日本や諸外国の保育の現状と課題について考察する。	30H
	学科	保育者論	授業の全体を通して、保育者としての専門性とは何かについて理解した上で、保育および保育者を取り巻く社会情勢や実態について考察できるよう学習を進めていく。職務の専門性に加え、保育者の資質とは何かについて具体的な能力として理解した上で、自分自身に置き換え、身に着けていけるよう学習を深める。加えて、実際の園での保育者の姿から保育者の役割や保育者が理解しておくべき保育にまつわる問題・課題に関する理解を深める。 授業においては保育にまつわる資料(映像等)を見るのみならず、レポート・ディスカッション・グループワーク等を通じて、保育・保育者について考え、表現する力をつけることや自分自身の保育者観を形成することをめざします。	30H
	学科	教育原理	教育の理念、思想及び子どもの発達についての基礎的知識の理解を図り、公教育制度成立の諸外国と日本における歴史的背景を踏まえ、学校や教育行政の仕組みと制度について、その現状と動向を把握し、そのあるべき姿について考察する。また、教育を受ける権利の保障(教育の機会均等)、危機管理、地域連携等について理解を深め、様々な課題や具体事例を取り上げながら展開する。	30H

科 目		科 目 の 内 容	時間数
訓練の内容	学科 子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷等の基礎的な知識を身につける。それらを基に、子ども家庭福祉制度と保育との関連、行政や児童福祉施設等の制度や法体系を理解する。さらに、少子化の問題、保育ニーズへの対応等の子ども家庭福祉の現状と課題、保育を取り巻く関係機関との連携やネットワークについて理解を深める。本講義では、乳幼児を対象とした事例を通して、身近な問題として関心をもてるように授業を構成する。	30H
	学科 社会福祉	社会福祉とは何かをまず知り、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について学ぶ。次に、社会的福祉の一分野における児童家庭福祉との関連、児童の人権や家庭支援について理解する。さらに、行政機関や社会福祉施設等の実施機関、社会保障制度等、相談援助活動や利用者の権利擁護等の保障にかかわる仕組みを学ぶ。本講義では、社会福祉とは、保育・教育・医療・保健・労働・文化等、広い分野での組織的活動が必要であること、施設福祉から在宅・地域福祉への移行、少子高齢化社会への対応との課題や動向について理解を深める。	30H
	学科 子ども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義や目的への理解を基礎とし、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の必要性と、具体的な支援に必要な知識や技術について学ぶ。さらに、多様な支援の展開と、周辺領域の専門機関との連携について学びを深め、自らの実践につなげる上での留意点を理解する。	30H
	学科 社会的養護Ⅰ	社会的養護とは何かを理解した上で、社会的養護の意義と歴史の変遷を知る。次に、児童の権利擁護や、社会福祉と社会的養護の関連について理解する。さらに、社会的養護の制度や法体系を踏まえ、施設養護の日常生活支援、自立支援の実践について学ぶ。また、被措置児童の虐待防止、地域福祉との連携について理解する。本講義では、2016年の児童福祉法改正後に示された社会的養育ビジョンについても触れながら、家庭養護と施設養護の役割を知り、社会的養護の現状と課題や今後の展望について理解を深める。	30H
	学科 保育の心理学	保育実践に関わる発達心理学の知識を習得し、子どもの心身の発達について理解を深める。発達心理学の知識だけでなく考え方や手法を知ること、子どもの発達を見る目を養う。身体の発達について理解し、月齢・年齢に応じた多様な身体経験の必要性と、保育の中で提供できる環境と身体発達との相互作用を考える。認知的発達についても、環境との相互作用を理解し、遊びの中で子どもそれぞれの認知発達を育むことを学ぶ。また、自己の発達や感情・抑制能力、社会性の発達等の理解に基づいて、子どもの自己主張や子ども同士の関わり、集団での遊びと学びについて考察する。これらを通じて初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。	30H
	学科 子ども家庭支援の心理学	子どもや家庭を取り巻く社会情勢の変化を背景に、保育士の専門性に対する期待は高まるばかりである。「子ども家庭支援の心理学」では、子どもやその家庭の支援に関する包括的な理解を目的に、必要とされる基本的な知識を習得する。具体的には①生涯発達、②家族・家庭の理解、③子育て家庭に関する現状と課題、④子どもの精神保健とその課題である。既学の教科との関連性を踏まえながら、具体的な事例を交えて学びを深めていく。	30H
	学科 教育心理学	ヒトが生まれてからの一生涯の中で、幼児期のもつ心理的特性の意義や意味について考える視点をもちながら、教育心理学の領域として主として取り上げられる、発達、人格、学習、評価における心理学的な研究の成果について、基本的な用語や理論、そして、技術的な応用として、どのような技法があるかを学ぶ。また、集団を構成する人間関係の中での心理、個人の生活にも影響を与えるその他のストレス等の子どもの心理的問題、さらに、障がいをもつ子どもたちの心身の特性についても理解を進め、今日的な乳幼児教育における状況に関しても、心理学的な視点からの問題提起が必要であるとの認識にたてるよう、これを考察していく。	30H
	学科 幼児理解と教育相談	幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身につける。また、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や方法について、個と集団や家庭との連携を含めて考える力を身につける。	30H
学科 子どもの保健	子どもの健康増進や保健の理念を育むために、子どもの成長・発達、養育環境、母子保健活動、疾病予防について学ぶ。また、養育者の子育て不安や子どもの虐待等、子どもと家族を取り巻く近年の諸問題の背景や予防等について理解する。さらに、子どもの保健に関して保育者に期待される役割や保育現場に期待される取り組み、家庭・専門機関・地域との連携について理解し、これからの保健活動を考える素地を養う。	30H	

科 目		科 目 の 内 容	時間数
訓練の内容	学科 子どもの食と栄養	子どものライフステージ（申請時期・乳幼児期・学童期）別に個人の身体状況、運動機能、精神機能や生活習慣行動の発育に応じた「食と栄養のかかわり」について基礎理論と実践方法を修得することを目標とする。本講義では子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学修し理解する。	30H
	学科 保育内容総論	保育の目標を達成するために、日々の保育をどのように行っていくのか。5領域の学びを基礎として、発達の特性や連続性、個と集団等を考慮し、それらを統合化し、子どもの生活を総合的に捉える保育の展開について学んでいく。授業は、テキストの事例にそって進めていく。保育内容については、（１）園をイメージすること（２）学生自身が子どもになりきって遊んでみること（３）実際の子どもの姿から学ぶことの3点の視点から多様な保育の展開をプランして、模擬保育を実施する。	30H
	学科 保育・教育課程論	幼稚園・保育所・認定こども園における保育・教育課程の意義や編成について、理論的、歴史的に理解を深める。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本を理解しながら、保育課程の編成原理、指導計画やPDCAサイクルによる保育の質の向上について学ぶ。また、子どもの発達の連続性に沿った、保幼小連携カリキュラムについても理解を深める	30H
	学科 保育内容演習 環境Ⅰ	現代の幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との相互作用に係る専門的事項に基づき、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育領域「環境」のねらいと内容および全体構造について理解を深める。また、幼稚園教育における評価の基本的な考え方を理解する。	16H
	学科 保育内容演習 健康Ⅰ	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるために、保育場面において子どもの発育発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し援助するのか、実践を通して理解を深める。本授業では、基本的生活習慣の形成を支える援助及び健康・安全指導を中心として展開していく。	16H
	学科 保育内容演習 言葉Ⅰ	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。	16H
	学科 保育内容演習 人間関係Ⅰ	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、家庭や地域社会を通じて得られる経験とそこから得られる学びの延長として幼児教育を考える必要があることを示し、特に、領域「人間関係」において求められる他者との関わり、集団との関わりを促し、深めることの機会を、遊びの中でどのように構成していくかを具体的に構想し、実践する方法を身につける。	16H
	学科 保育内容演習 表現Ⅰ	保育内容の領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを、学生自身が体感し子どもの表現を理解する。	16H
	学科 領域 健康	生きる力の基礎は、乳幼児期に培われる。乳幼児が生き生きとした生活を送ることができるよう、健康への十分な留意は言うまでもない。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される基本原則を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容を解説するとともに、健全な発育発達を阻害している現代の健康問題を起点に考察し、ICTを活用しアプローチしていく。	16H
	学科 領域 環境	領域「環境」の指導に必要な基本的知識・技能を身につける。身近な環境、そして環境と幼児との関わりを適切にとらえる感性を養うとともに、保育実践の基礎となるよう、身近な環境との関わりと幼児の発達について、体験的に理解することを目指す。	16H
学科 領域 言葉	領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、発達過程に留意しながら、子どもの言葉を豊かに育む保育者の役割を学んでいく。また子どもの言葉や表現を育てる児童文化財に関して理解を深め、保育の現場で活用する技術を身に付けていく。	16H	

科 目		科 目 の 内 容	時間数
訓練の内容	学科 領域 表現	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な遊びや環境構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。	16H
	学科 特別支援教育論 I	今日の「障害者の権利に関する条約」下における特別支援教育のあり方を学び、その上で、特別な支援を必要とする子どもたちへの保育や教育の課程や、支援方法について理解を深める。さらに、教育における多様性の保障の視点や、障がいはないが、特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する教育のあり方や、具体的支援について学ぶ。事例検討を取り入れながら、批判的思考や課題解決的思考の習得を目指す。	16H
	学科 特別支援教育論 II	特別支援教育の概念を基本とし、就学前の「障がい児保育」について学ぶ。最初と具体的支援について理解する。また、保育における発達の援助について、基本的な考えを把握した上で、障がい児保育の現状を知り、指導計画の作成・記録・評価についても理解する。さらに、家族への支援、福祉や教育、その他の専門機関との連携について理解を深める。本講義では、障がいを持つ子も持たない子も精いっぱい力を発揮して、のびのび遊び、学ぶことができる保育の実現のために何が必要かに重点をおき、事例検討を取り入れながら学ぶ。	16H
	学科 保育内容演習 健康 II	特乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるために、保育場面において子どもの発育発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し援助するのか、実践を通して理解を深める。本授業では、幼児を取り巻く心と体の現代的な課題を踏まえ、運動遊びを中心として展開していく。	16H
	学科 保育内容演習 環境 II	幼稚園教育要領における領域「環境」のねらいと内容を踏まえて、幼児の発達に即した具体的な指導場面を構想する方法を身に着ける。指導案の作成や模擬保育を通して保育の実践力を養うとともに、保育を振り返り改善する視点を習得する。	16H
	学科 保育内容演習 言葉 II	幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。言葉を育むための環境・遊び・保育者の役割などについて学び、教材研究を通じて理解を深める。	16H
	学科 保育内容演習 表現 II	保育内容の領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について、「保育内容表現 I」での学びと関連させて理解を深め、具体的な指導場面を想定して総合的な表現活動を構想する方法を身に付ける。	16H
	学科 保育内容演習 人間関係 II	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、関わりが展開していく上でのプロセスを重視し、主体的、対話的で、深い学びを実践する保育となるように、実際の事例や考えられるケースを想定しながら、そこに、どのように保育者が関わり、どのように声かけをしていくことで、子どもたちにとっての「人間関係」としての側面の学びを促し、深めていけるかについて、提案をすること、そして、これを検討する力を養う。	16H
	学科 教材研究 I	保育現場を想定して、幼児の成長を支えるために媒体となり得る教材について学ぶ。特に幼児の生活において身近な素材の特徴や面白さを把握し、感覚遊びや造形遊びでの表現を学生自身が楽しむ体験を通して、子どもの表現を引き出す方法を身に付ける。	30H
学科 教材研究 II	保育内容の各領域を総合的に捉え、「教材研究 I」での学びを踏まえたプランを立て、遊びを工夫し実践する。特に幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	30H	

科 目		科 目 の 内 容	時間数
訓練 の内容	学科 幼児体育	子どもの身体活動量や遊び体験の減少が心身の健康を脅かし、深刻な問題となっている。子どもたちの生きる力の基礎を培うには、保育者はどのような保育環境や具体的な援助が必要なのか、理解を深める必要がある。本授業では、領域「健康」及び「表現」のねらいと内容を理解し、小学校体育科との接続を見据えながら、運動遊びや身体表現を演習形式で展開していく。更に保育者はお互い連携し合い、子どもの健やかな成長のために充分話し合うことが求められる。そのためにも、演習課題については、運動遊びや身体表現の楽しさを仲間と共有しながら取り組んでいく。	30H
	学科 乳児保育Ⅰ	乳児保育の理念と意義を文献から学ぶ。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学び、3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場の重要性に関する理解を深める。また、3歳未満児の生活や遊び、3歳以上の保育への移行期における保育、保育士の援助や関わりと留意点について触れ、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解するとともに、乳児保育における職員間、保護者、自治体や地域関係機関との連携・協働についても指導する。	30H
	学科 乳児保育Ⅱ	乳児保育の理念と意義を文献から学ぶ。様々な乳児保育の現状と課題を学び、分析・検討し理解する。乳児の発達を理解し、生活と遊びの側面から適切な保育内容を捉える。乳児の発達の方向性や順序を理解し、保育の計画や発達を促す保育環境を演習を通して学ぶ。乳幼児保育における保育者の役割について事例検討を通して学び、保育者の専門性や人間性について考察するとともに、保護者や関係機関との連携について様々な観点から学ぶ。なお、3歳未満児から幼児への発達の連続性についても併せて指導する。	30H
	学科 子どもの健康と安全	子どもの健康安全に関する計画の策定、環境整備、疾病予防と救急処置、安全管理、子どもの心と体の健康づくりに関して学ぶ。これらの内容を通して、保育者の保健及び安全に関する実践力を培う。さらに食物アレルギーへの対応やトリアージの判断について理解し、ケースメソッドによる協議により、学生自らが考え判断し実践できる力量を培う 保健的観点に基づく保育の環境整備や健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得させる。 保健活動の計画及び評価・心身の健康に関する保健活動や環境 ・体調不良等に対する適切な対応 ・衛生管理並びに安全管理	30H
	学科 子育て支援	保育相談の意義と基本を理解した上で、保護者に対する保育者としての専門性を活かした保育相談支援を実施するために、子どもの特性を把握すること、子どもの成長の喜びを共有すること、関係機関との連携等の基本を学ぶ。演習形式で、事例検討を中心にグループワークを取り入れながら、保育の専門性を生かした子育て支援の実践的な事項を学ぶ。	30H
	学科 社会的養護Ⅱ	社会的養護で学んだことを踏まえ、まず子どもの権利擁護と保育者の倫理について学ぶ。次に、施設養護と里親制度等の家庭的養護のそれぞれの特徴と実際を理解する。さらに、個々の子どもの特性に応じた支援計画・日常生活支援・治療的支援・自立支援・記録。評価方法について、具体的に学ぶ。また、施設の小規模化、地域支援等の社会的養護の今後の課題についても理解する。本講義は、具体的な事例を通じて検討しながら、保育者の専門性を高めること及びソーシャルワークに関わる技術の習得を図る。	30H
	学科 教育の方法と技術	本科目では、学習領域や子どもたちの特性に応じた教育方法・技術を理解し、これを授業の設計、実施、評価、改善に役立てる指導力を身につけることを目的とする。教員に求められる教育方法・技術に関する知識、技能は多様化してきている。特に重要な課題として掲げられるのが、アクティブ・ラーニングの視点に基づく「子どもたちの主体性を生み出す教育・子どもたちの関わりを生み出す教育」の実現、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力を踏まえた「見方・考え方」の育成、ICTを手段として活用する力の育成、多様性を尊重する態度の育成である。本科目では、このような課題に対応し、学習の改善・充実を図る教育方法及び技術の理論と実際を学ぶ。	30H
	実技 地域と子どもⅠ	幼児教育学科の学生としての基本的な学びの姿勢を修得する。本学の見学の精神「愛と理性」、教育理念「創造」を基盤におき、入学当初から少人数のゼミでの学習を通して「自らが学ぶ」という積極性が必要であることを自覚する。具体的には、地域の子育て支援について学ぶことや施設見学、ボランティア活動を通して、社会人として身につけるべき事柄も学んでいく。	30H

科 目		科 目 の 内 容	時間数
訓練の内容	実技 地域と子どもⅡ	「地域と子どもⅠ」に引き続き、地域の子育て支援について学ぶことや施設見学、ボランティア活動等を通して、自分の学修目的を明確にしていく。各ゼミの教員・ゼミ生間でのコミュニケーションを深め、自己理解、他者理解のできる成熟性を身につける。	30H
	実技 情報処理Ⅰ	情報機器のほとんどが有線や無線を通じてネットワーク化されていること、また、そのネットワークを経由して、各種デバイスが利用されていることを知り、情報の扱い方に留意した操作の練習をする。また、インターネットで検索された情報を利用する際にも倫理的、法的な配慮をする必要があり、それらに対する経験的判断と方法を整理して学ぶ。	16H
	実技 情報処理Ⅱ	主として実務作業を担うオフィス・ソフトウェアや、教育活動の一助となるマルチメディアに対する理解を得た上で、目的に応じた処理方法を組み立て、円滑に利活用できるようにする。	16H
	実技 音楽Ⅰ	子どもの豊かな表現を見だし、支えるためには保育者自らが表現する楽しさや喜びを実感する経験を豊富に持っている必要がある。本授業では、音楽活動の場で必要な弾き歌い、楽器演奏の基礎的な力や保育者として必要な音楽知識を学習するとともに園生活での子どもの発達と音楽との関わりの重要性も合わせて理解させる。また、簡単なリズム楽器を使い、音楽の楽しさを仲間と共有することで保育者として子どもと向き合う姿勢を学ぶ。	30H
	実技 音楽Ⅱ	本授業は、音楽Ⅰでの学習を基礎として保育者自身の感性を磨き、豊かな表現力を身につけるための音楽知識や技術を学ぶ。更に、心情や情景などを音で表現したり、詩やおはなしに合わせた音楽づくりなどイメージや創造によって表現の可能性を広げられるよう経験を重ね、子どもの自由な表現を促すための知識、技術を高め、保育者としての態度がどうあるべきかを理解する。ピアノ弾き歌いでは、状況に応じて簡単な伴奏付けや移調奏ができるよう理解を深める。	30H
	実技 音楽Ⅲ	歌唱、アンサンブル、リズム遊び、絵本に合わせた音楽づくりなど様々な体験を通して、表現する楽しさを生み出す音楽的要因について考え、幼児の表現活動を展開できるよう、実践的な力をつける。また、音楽教材のレパートリーを増やすとともに幼児の豊かな感性を引き出せるよう、自らの表現力を磨く。	30H
	実技 保育・教職実践演習(幼稚園)	この授業は教員・保育士養成課程2年間の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。主に事例研究や模擬保育を通して、保育者として必要とされている知識や経験を補い、その定着を図る。また、保育者としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち、幼児理解やクラス運営、保育内容の指導力等の観点から、グループ討議を行う。演習課題に対して、学生自身が主体的に取り組むことを通して自己課題を見つけ、課題解決の方法を見出せるようにする。	30H
実技 保育実習指導Ⅰ	実習前は、保育所と施設それぞれの実習の意義と目的を理解し、他の教科との有機的な関連の中で実習が行えるようにする。具体的には、保育所や施設の内容や機能を知り、実習記録(実習日誌・指導計画)の書き方や、実習に対する心構えや態度を身に付けていく。また、期待と意欲をもって実習に取り組めるようにする。実習後は、自らの実習を振り返り、自己評価する一方で、他者との協議・報告を通して、保育を省察していくための現時点での問題を明確にしていく。	30H	
実技 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	「保育者実習Ⅰ(保育所)」における実習成果を踏まえ、保育所(保育園)で具体的に学ぶ実習園のための事前・事後指導を行う。保育者として必要な資質・能力技術をより充実させ、保育者業務、職業倫理、地域支援等についてより深く理解できるよう、指導計画の作成、丁寧な実習記録の記述、実習項目への気づきと反省の記述等を事前に学んでおく。事後指導においては、保育者になることにつ自覚を持ち、子ども観・保育観を確立し、自己課題を明確化する。	60H	

科 目		科 目 の 内 容	時間数	
訓練の内容	実技	スポーツ科学	身体運動を実践することにより、自己の身体を認識し、生涯スポーツとして、豊かなスポーツライフを送るための実践的学習を行う。教材となるスポーツ種目の演習においては、上達していく上での技術的なポイント、ルールやマナーを理解し、仲間とコミュニケーションを取りながら興味や関心を持ってスポーツに親しむ。また将来にわたり、運動を継続していくため基礎的理論と実践方法について学ぶ。	30H
	実技	保育実習Ⅰ（保育所）	保育所の役割を理解し、保育の方法を身につける実践学習である。子どもと生活する中で、養護と教育が一体となっている保育所保育の本質について実践的に学びを深める。実習前半は指導担当の助手として保育に参加し、子どもと触れ合い、保育士の援助を間近に見ることによって実践的に保育を学ぶ。実習の後半は、部分実習を行うことにより、子どもたちの発達・興味に即した保育の方法について学び、「保育実習Ⅱ」へつなげていく。（保育所1カ所目）	60H
	実技	保育実習Ⅰ（施設）	施設実習は、児童福祉施設等の役割や機能、さらに利用者の生活等について学ぶために実施する。授業で得た知識や技能を実習を通して確認し、さらに児童福祉施設等実際の施設での利用者の生活を学ぶとともに、職員の指導のもとに利用者の生活援助を行い、職員の業務についての理解を深める。（施設1カ所）	60H
	実技	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	「保育実習Ⅰ（保育所）」での学びを基礎として、他教科の学びを統合化させながら、より高い専門的知識・技術を実践する場として実習を行う。特に、責任実習を通して、一人一人の子どもとクラスの特性を理解した保育の指導計画、展開、省察を繰り返し体験しながら、指導担当の助言のもと、保育の専門性を高めていく。また、保育所の役割や保育者の責務を学び、子どもを知るという目的の他に、実習を通して自己を発見し、自己を成長させていく大切な機会とする。（保育所2カ所目）	60H
	実技	地域ボランティア実践	地域のこども園、子育て支援拠点、児童福祉施設、地域行事等におけるボランティア活動を通して、学生が子どもや保護者、地域の多様な人々と関わりながら学ぶ実践的科目である。本科目では、活動前の事前学習、活動後の振り返りを重視し、経験を単なる体験にとどめず、保育者としての学びへと結び付けることを目的とする。	30H
計		総訓練時間 1670時間 学科 1128時間 実技 542時間		
その他行事等		入学式、卒業式、学園祭	約15H	
取得可能な資格・検定 (別途資格試験等の受検を要するもの)				
修了時取得できる資格等 (修了時別途資格試験等を受検することなく取得できるもの)		短期大学士、保育士（※一定の要件を満たした方）		
過去に実施した職業訓練の 就職率（類似分野）		令和5年度 100% 令和6年度 ※集計中 令和7年度 ※訓練中	100%	
主要な機械設備				

※記載内容について、一部変更となる場合があります。